

大分教育事務所訪問 66

大分市立田尻小学校に学ぶ

学校経営から学ぶ

学校の教育目標「豊かな感性、たくましい心と体、自ら学ぶ意欲を持つ子どもの育成」を達成するために、めざす子ども像を「豊かな感性とたくましさ具备了、生きる力を持つ子」として、「つよい子」「のびる子」「やさしい子」と子どもの姿を中心とした重点目標を設定しています。特に今年度は、安全・安心な学校環境に気を配り、大胆な改善も行っています。

今後は、協議の中で確認した「忍耐強さ」等、学校として育成を目指す（教科横断的な）資質・能力を明確にし、教職員だけでなく、地域や保護者とも協議、周知することをおして、全ての関係者の力を集結させてはいかがでしょうか！ ※参考資料「小学校学習指導要領解説 総則編 P47 2教科等横断的な視点に立った資質・能力」

授業から学ぶ

4年生算数では、作業を取り入れることで子ども達に課題を発見をさせるなど、メリハリのある授業展開でした。当初、姿勢が気になる子どもがいましたが、多くの友達の意欲的な姿から、本人も次第に学びに向かうようになり気がつく姿勢も良くなっていました。細かな規律的な指導よりも、教室全体を学びに向かう雰囲気をつくることの大切さを学びました。

2年生算数では、教室全体がとても明るく、それぞれ思ったことをつぶやいたり、うなずいたりしていましたが、子どもが自分の思いを伝える時はきちんと挙手をして、「～です」等公の言葉で発言し、聞く子ども達も静かに耳を傾けていました。そのような、規律のある教室だから、教師が指示をしなくても困っている友達の所まで行き教える子どもが多くいました。授業規律の本質を知ることができました。

3年生算数では、それぞれの意見を聞き、一つの考えにまとめる授業でした。また、日常的に算数日記に取り組まれ、振り返りを大切にしていることで、子どもの成長を確認することの大切さを学びました。

今後は、指導案にある「振り返り」には、子どもがどのような事を書くのか、どんな姿になったら良いのか等、教師が願う具体的なゴールの姿を「子どもを主語」とすることで、「ねらい」との連動や評価規準がより明確になります。そのような、日常的な実践を行うことで授業力がより向上すると思いました。



NO.295 2021年9月 田尻小学校

つよい子

発言をした時「同じだね」「その考えもいいね」「すごいね」と言ってくれる友達がいるから、自信がもてる。



NO.296 2021年9月 田尻小学校

のびる子

自信をもって挙手ができるのは、聴いてくれる友達がいるから。お互いが聴き合うことで、みんなが成長する。



NO.297 2021年9月 田尻小学校

やさしい子

困っている友達がいたら、すぐにそばにいくことができる。そして、相手と対話をしながら、手伝うことができる。